

緊急セミナー「あれは自分ではなかったかagain」第3弾!

介護現場の虐待を考える

虐待の時代にどう向き合えばいいのか

このテーマ、これまでゲストとして三好春樹、鳥海房枝、伊永紳一郎、芹沢俊介、最首悟各氏をお招きしました。今回は、第1弾で特別講演をお願いした芹沢俊介氏に、初登場・高口光子さんが絡むという、興味深いコラボです。お二人の対談も聞き逃せません。

東京

日時：2017年4月16日(日) 10:30～16:00

会場：総合ケアセンター駒場苑【2階】(※60名限定)

(目黒区大橋 2-19-1) ☆京王井の頭線「駒場東大前」駅西口より徒歩5分

講師

高口光子

老人保健施設「星のしずく」「鶴舞乃城」看・介護部長
／理学療法士
現場では若いスタッフやリーダー育成に取り組む一方、講演や執筆活動、テレビ出演など、幅広い活動を展開中。著書に『介護リーダーの超技法』(雲母書房)など多数。近著に『生活支援の場のターミナルケア—介護施設で死ぬということ』(講談社)がある。

芹沢俊介

社会評論家
1942年東京生まれ。上智大学経済学部卒。家族、教育、青少年犯罪など幅広い分野にわたり発言や執筆を続けている。養護施設の職員たちとの勉強会「養育を語る会」は、19年に及ぶ。著書に『家族という意志』(岩波新書)、近著に秋葉原通り魔事件を扱った『愛に疎まれて』(批評社)他、多数。

プログラム	10:30～12:00	虐待の芽をつむために —施設で虐待が起こるメカニズム 介護職のストレスや孤立は、放置しておけば不適切ケアや身体拘束に結びつく。虐待が起こらない職場環境を築くことで、虐待へとエスカレートする流れを食い止めよう。 (昼食) 【高口光子】
	13:00～14:30	(特別講演) 見えない虐待 —存在への敬意と受け止められ体験 自我が損傷されると、自己破壊衝動がふくらむ。それが外部に向かうと、被害妄想は社会への復讐や優生思想にまで発展する。人間学的視座から更に〈虐待の根源〉を問う。 【芹沢俊介】
	14:45～16:00	(対談) 子どもへの虐待と認知症の人への虐待 【対談者】／高口光子 × 芹沢俊介

*受講料はお送りしません。満員でお断りする場合のみ一週間以内にご連絡さし上げます。
*受講料は当日会場で承ります。

【受講料：5,000円】

主催 なるほどケア塾 お問合わせ ☎042-306-3771
〒189-0011 東京都東村山市恩多町 3-39-13-101 榎円窓社内

共催 埼玉おむつ外し学会実行委員会

お申し込みはこちらへ Fax

Fax: 042-306-3772

<参加人数>

4/16(日) 東京
()名

<参加者名>

*施設の場合は施設名もご記入ください。

<住所>〒

(自宅・職場)

<TEL>

<FAX>